



UIFA ニュース

発行 宇治市国際親善協会

事務局 〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書広報課内

電話 0774-22-3141 (内線2058) FAX 20-8776

Eメール hishokohoka@city.uji.kyoto.jp

ホームページ <http://uifa.news.coocan.jp>

第 77 号

平成28年(2016年)11月

友好都市カムループス市へ公式訪問

2016年6月30日▶7月4日

平成28年度宇治市カムループス市公式訪問団（市民訪問団9名、行政訪問団5名、団長・宇野哲弥宇治市副市長）は、昨年友好都市盟約締結25周年を迎えたカナダ・カムループス市へ更なる友好を深めるため、6月30日から7月4日まで同市を訪問しました。

滞在中は、「カナダの誕生日」とも言われる7月1日のカナダデイ式典、カムループス市主催の公式晩餐会への出席や、日系人会館、市民留学生等で交流があるトンプソン・リバーズ大学などを訪問し、たくさんのカムループス市民と触れ合いながら交流を深めました。

当協会から派遣した市民訪問団員は、カムループス市を離れてから7月8日までの日程で、バンフ等を訪問しました。市民訪問団に参加された2名の団員の訪問記をご紹介します。



カナダを感じて

市民訪問団員 橋本 扶左子

6月30日、多くの方に見送られてカナダへのワクワク・ドキドキの旅が始まりました。伊丹から成田へ約1時間、成田からバンクーバーまで約9時間、バンクーバーからカムループスまで小型機で約1時間、やっと着いたカムループス、雄大な山と広い空が出迎えてくれました。気温は30℃くらいあったのですが、乾燥しているので快適でした。夜はグループに別れてのホームビジット（カナダの家庭にお邪魔して夕食を共にしました）で、私が訪ねたお宅は広い庭に素敵なプール（青い綺麗な模様のタイルが敷きつめられています）のあるCarol & Dennis Fitzmaurice 夫妻宅でした。お庭でクラッカーやワインを飲みながらのおしゃべり、その後ダイニングに移って、ご夫妻の手料理をいただき、あっという間に楽しい時間は過ぎていきました。

翌日はカナダデイ、リバーサイドパークには様々な模擬店がテントを連ね、多くの人が集っています。皆、顔や腕などにカナダ国旗のシールを貼ったりペイントしたり、真っ赤なシャツを着たりと趣向を凝らし楽しんでいました。ステージではミロバー・カムループス市長、宇野副市長を始め、色々な方のスピーチのほか、たくさんのイベントが次々と紹介されました。そこで感じたのは、カナダは移民の国、様々な人種が混じり、先住民との関係も含め、見事に融和しコミュニティを形成しお互いを認め助け合っている、カナダだからこそできているのだと感じました。



カムループス市主催の公式晩餐会、日系カナダ人協会主催の夕食会等、心温まるおもてなしを受けました。トンプソン・リバーズ大学では、宇治市からの3人の留学生がホームステイしながら世界各国の留学生とともに学んでいました。広々とした緑豊かなキャンパスで学べるなんて、とても羨ましく思いました。

カムループスでの日程も無事終わり、行政訪問団員と別れ、私たちはバ

ンフに移動しました。空を突き刺すかのような山々がそびえ立つカナディアン・ロッキー、白く輝く氷河、ロッキーの宝石とうたわれたレイク・ルイズや青く美しい湖の数々、自然や野生動物を大切に守り続けているカナダの雄大さや美しさを堪能した旅でした。

宇治市とカムループス市が友好都市となって26年目、これからもこのよき関係が限りなく続くことを願っています。また、末尾になりましたが、今回の訪問にあたり、ご準備くださいました関係者の皆様に感謝申し上げます。



公式市民訪問団に参加して

市民訪問団員 和 智 哲 三

どこか外国旅行と考えると新しくパスポートを入手したタイミングに、市政だより「カナダ・カムループス市民訪問団募集」の記事を目にして、安心してカナダ旅行が出来るといった思いだけで夫婦で早速応募した。訪問団員として訪れる意味も考えず、カムループスが宇治市の友好都市の名前だという事も初めて知ったような状況で、英語力も無く、カナダの国の知識も無く、思えば公式訪問団としては無責任な参加だった。

カムループスに着いた夜、団員はそれぞれ2~3人に分かれて市民宅の夕食に、私達も Stodola ご夫婦の迎えを受け、彼の運転でホテルから20分程のお宅に招かれた。雨の少ない乾燥地のため山火事が繰り返された結果だとか、禿げ山の連なりとトンプソン川を背景に広がる大きな庭、そしてプールでは子供達が遊びまわっていた。着くとすぐにご主人の Julian さんがバーベキューの肉を焼きだし、娘さんとイタリア人のお嬢さん、息子さんのスコットランド人のお嫁さん、お友達と日本人のお嫁さん、そして3人のお孫さん達と自家製ワインや地ビールでのおもてなしを受け、8時を過ぎても明るい夜空に戸惑い、生活の違いやスケールの大きさに圧倒され、すばらしい夕食に酔いしれた。お土産を頂いて、用意してもらったタクシーでホテルに向かう車中、私達が用意したお土産では申し訳ない気持ちでいっぱいになった。日本に帰ってすぐにお礼のメールをしたが、届いたかどうか心配している。

2日目、リバーサイドパークで行われたカナダの建国記念日にあたる「カナダデイ」オープニングで小さなカナダの旗を振りながらパレードに参加した。テントの最前列に宇治市訪問団の席が用意されていて、ステージでの在住の日本人の子供達の歌や和太鼓の演奏等を楽しんだ。そして Stodola 家だけが国際的なわけではなく、カムループス、カナダ全体が原住民と各国からの移民で成り立っている事、民族や宗教その他いろいろな違いを認め合いながら個々の伝統を大切にしている事を知った。多くの日本人も又その昔この地に移住して、雄大な大地の恩恵を受けながらも、長い苦難の道を歩み、そして現在の平和な日々を迎えられたのだろうと思うと胸が熱くなった。



同夜の公式晩餐会ではカムループス市から訪問団全員への tengaron hats のプレゼントをかわきりに、各々から持てないほどのプレゼントを頂いた。メイプルシロップ、クッキー、キーホルダー等々、そして挨拶する順番が回って来た時に簡単な英語での自己紹介ぐらい考えてくるべきだったと本当に後悔した。会話が出来たらどんなに楽しかった事だろう。同時に日本の若者への英語の必要性を痛感した。世界で通用するには英語は絶対必要だと。

訪問団員として宇治市との友好交流を図れたかは疑問だが、その後ファーマーズ・マーケット、カムループス博物館、トンプソン・リバーズ大学見学、2141 へリテージ蒸気機関車ツアー、日系カナダ人協会で夕食会に参加（日系の方々が訪問団の為に日本食を用意して歓迎）等々カムループスでの日程を終えた。

特に、トンプソン・リバーズ大学は宇治市からの留学生3名が頑張っておられ、滞在中通訳のお世話をいただいた。機会があれば、孫にも経験させてやりたいと感じた。



キャンモアでのロッキー山脈観光は、テレビや写真でのカナダそのものだった。目の前に広がる雄大さは口で言い表せないほど圧巻だった。考えの及ばない時の流れに、大陸のスケールの大きさに、いつまで見ても飽きない自然の美しさを目に焼き付け無事宇治に帰って来た。

今回の旅行でお世話になった、カムループス市・宇治市・他、全ての方々に感謝致します。機会があれば又参加したいと思います。そしてカムループスとの友好交流がこの先も長く続く事を願っています。

●●● 咸陽市公式訪問団来宇 ●●●

2016年7月31日▶8月2日

宇治市の友好都市の咸陽市（中国）から、肖芳・咸陽市人民代表大会常務委員会副主任を団長とする公式訪問団3名が7月31日（日）から8月2日（火）までの日程で来訪されました。宇治市への訪問団の来訪は平成21年11月以来で、今回で22回目となりました。

訪問団一行は、31日の午後に関西国際空港に到着され、その後大阪市内を見学されてからホテルセントノーム京都での歓迎晩餐会に出席されました。

2日目は宇治市役所で歓迎式典があり、今年で友好都市協定締結30周年を迎えることから、宇治市からは楯、咸陽市からは万里の長城が描かれた手刺しゅうの記念品の交換が行われました。また、この日は宇治市役所への表敬訪問、市議会の視察、対鳳庵でのお茶体験、さらには黄檗山萬福寺や平等院、天ヶ瀬ダムをご覧になるなど宇治市内を視察されました。移動中に白川の茶畑をご覧になった際には、関心を寄せておられました。

最終日は京都市内を視察され、午後には同じく友好都市の千葉県成田市に向け京都駅を出発されました。3日間と短い交流でしたが、30周年を機に実現した約7年ぶりの来訪が、友好を深める良いきっかけになったと感じました。



歓迎晩餐会にて



歓迎式典での記念品交換



市役所を表敬訪問



平等院にて

会員募集と会費納入のお願い

当協会の運営は皆様の会費によって成り立っています。会の運営活動を活発に行うため、皆様方の会費納入をよろしくお願いいたします。

平成28年度の会費納入がまだの方は、振込または事務局にて納入をお願いします。

併せて、会員の募集をしています。皆様方のご協力をお願いします。

年会費 個人会員 2,000円 団体会員 5,000円 法人会員 10,000円

【振込先】 京都銀行宇治支店普通預金…678459
受取人は「宇治市国際親善協会」です。

事務局だより

事務局では、次号からスタート予定の「(仮) わが家の国際交流」のコーナーに掲載する協会会員の皆さまからの原稿を募集しています。旅行記や体験手記など国際交流に関する内容であればテーマは問いません。掲載をご希望の方は、郵送、Eメール、またはFAXにて12月末までに協会事務局までお願いします。掲載は各号1～2人を予定しています。ただし、その他の記事の関係上、記載できない場合もございます。(応募先は1面を参照)

内容：事実にもとづいて書かれた未発表のもの

字数：800字以内

応募の際は、お名前とご連絡先を忘れずに明記してください。

日本語支援ボランティア養成講座を開催

今年も、9月2日（金）から11月25日（金）まで全12回の講座で「日本語支援ボランティア養成講座」を京都府国際センターとの共催で実施しています。今年は20名の方が、日本語支援ボランティアの活動をするために熱心に受講されています。10月28日の講座では、日本語学習会・スピークサロンの外国人学習者の方に参加いただき、受講者の皆さんは学習支援を実践体験されました。

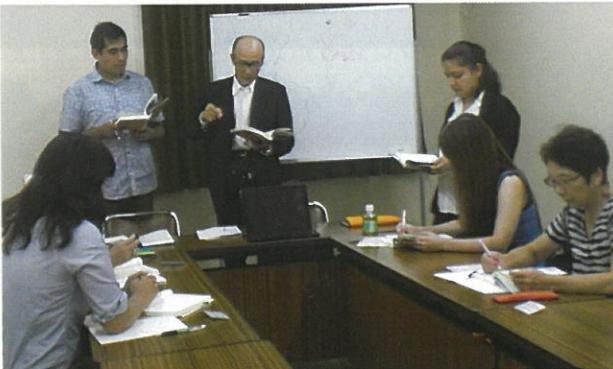
当講座は今年で3年目ですが、今回のハイライトは「災害時外国人支援」の講義で、災害時に近隣に住む外国の人々にわかりやすく、迅速に、どのような日本語で伝え、助け合うかを学びました。今後、一般市民に向けた講座の実施も検討しており、多くの市民の方に受講していただきたいと思っています。



語学講座を開催

長年続けて実施している語学講座が、10月5日（水）生涯学習センターで始まりました。今年は12月7日（水）までの全8回の講座で、「英会話初級」「スペイン語初級」「こども英会話」の3講座を実施しています。英会話初級は、今年も宇治市のAET（英語指導助手）3人に講師をしていただいています。1番バッテリーの講師は、日本が大好きなアレックスさんが担当され、初級といいながら英語が話せる受講者の皆さんは、英語での会話を目いっぱい楽しんでおられます。

スペイン語初級は、協会の団体会員であるLCK（文化でつながる京都）にご協力いただき実施できることになりました。受講者数は英語のクラスほど多くはありませんが、講師はスペイン語圏のペルーの男性とメキシコの女性で、アシスタントの日本人男性を含めた3人の指導で、スペイン語と日本語で小さなグローバル社会を創り出し、受講者の皆さんは有意義な時間を過ごされています。



こども英会話では、アメリカ出身のラッセル先生の指導のもと、遊び感覚で英語のカードゲームに興じ、英語の歌で動きながら言葉を習得し、また先生が読み聞かせるストーリーによって英語の発音に慣れ親しみ、子供たちは楽しさ全開で英語を身に付けています。彼らの将来の活躍ぶりが楽しみです。

雑観雑感

パラリンピック開催に思う

リオデジャネイロオリンピックが日本選手の活躍により史上最多のメダル（金12・銀8・銅21）を獲得し8月22日に閉幕した。時間をおいてパラリンピックが9月7日から18日まで、熱戦が繰り広げられ金メダルこそ無かったが、銀10個・銅14個の活躍をしたことはご存知の通りです。

障害者スポーツの祭典であるパラリンピックは、第2次世界大戦後に戦争で傷ついた兵士のリハビリ目的で始まり、オリンピックに続いて同じ都市で開催されるのは1960年のローマ大会以来続いている。

そこで、開催時期について疑問に感じたことがある。オリンピックでは、国民のオリンピックムードが非常に盛り上がるが、閉会后時間をおいてパラリンピックが開催されることで、別々の隔たれた大会のように思ってしまう。せっかく盛り上がったオリンピックムードを持続させるためには、同時開催等連続性を持たせた大会にすることが良いように思う。せっかく多くの選手が努力をした成果を見ること・応援できる機会である。多くの人が関心を持ちパラリンピックを見るようになればと思う。(T.Y)